

ごあいさつ



公益社団法人 日本 WHO 協会
理事長 関 淳一

年も明け、今年もジュネーブの WHO 本部では 1 月 23 日から 2 月 1 日までの 10 日間、恒例の WHO 執行理事会（第 140 回）が開催されました。今回の執行理事会では、6 月に任期を終えるマーガレット・チャン現事務局長の後任について昨年の 9 月の締め切りで加盟国から推薦された 6 名の候補者の内から 3 名（各々エチオピア・英国・パキスタン）が最終候補者として決定され、公表されました。今後、5 月の WHO 総会に於いて、全加盟国による投票により 3 名の内から次期事務局長が選任されます。WHO は目下多くの課題を抱えており、次期事務局長の選任は注目に値します。

今回、当機関誌 62 号を発刊するに当たり、多くの方々の協力を頂きました。この場を借りまして、先ず厚くお礼申し上げます。

昨年 10 月 1 日に国際保健医療学会学生会部会（jaih-s）と共催企画「命をつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～」を開催しました。Jaih-s との共催企画も今年は 6 年目を迎え、双方にとってすっかり年中行事の一つとなった感があります。今回も、企画・運営そして、この開催報告の作成まで全て jaih-s の方々にお任せし、私共は裏方の仕事に徹しましたが、命につながる、「食料」を切り口に世界の情勢を学ぶ極めて有意義な機会となりました。

また、森田佳奈子様には特にお願ひして、ハイチでのコレラ流行に対する緊急支援活動のご経験の中

心にご寄稿頂きました。ご自身の幼少時の経験を常に原点として、国際保健医療現場での活動を続けておられる様子が読み取れ、極めて意味のあるレポートと思います。

又、前号に掲載した、京都大学医学部学生の方々によるスタディーツアー報告文の続編として「WHO 神戸センター訪問記」を掲載いたしました。

寄稿頂いた原稿を一読し、ロス所長を初め WKC のスタッフの方々の全面的なご協力の下で、訪問した学生の方々が、今後のキャリアを考える上で、参考になる非常に多くのことを学ばれた、極めて良いスタディーツアーであったことがうかがえました。

ところで、今年の世界保健デーのテーマは「うつ病:一緒に話そう」(Depression:Let's talk) です。4 月 7 日を中心に世界中で啓発活動が行われます。私共も、その第一弾として、今回大阪大学保健センター教授工藤喬先生に「うつ病との正しい付き合い方」と題して、うつ病対策の現状と課題等についてご寄稿頂きました。

私共も、これを機に、うつ病への対応の仕方について、年間を通じて共に考え語り合いたいと思います。

今後とも、当協会へのご協力ご支援を心からお願い申し上げます。

平成 29 年 2 月